

【校長室の窓】 R 2年 9月

「完全燃焼」！ 試練の体育祭

川棚高等学校長 畑野 公昭

9月5日土曜日、体育祭の朝は薄曇り。折からの風がテントのシートを波打たせていた。前日の予報では降水確率が高く、開催は危ぶまれていた…。

本年度の体育祭は、新型コロナウイルス感染防止のため、プログラムを午前中で終了するように、やむなく大幅に縮小し、観覧も3年生の保護者に限らせていただいた。また、急に発生した台風10号が猛烈な勢力を維持して本県を通過するとの予報があり、翌週の開催も見通しが立たなかったため、急遽1日前倒しすることとした。

空を流れゆく雲を祈るような気持ちで眺めつつ、なんとか体育祭を開催することができたのは幸甚であった。開催までは困難と試練の連続であったが、準備期間が1日短くなった中で、ブロックの生徒を激励し急ピッチで演技を仕上げる3年生の姿には、逆境にめげず前向きに取り組む川高生の力強さが感じられた。

当日、午前中の短い時間の中で生徒が見せてくれた体育祭は、見まごうことなく素晴らしいものであった。体育祭は、本来、準備に費やしてきた体育の授業の発表の場である。走る、飛ぶ、止める、決める、そろえる…その動作の一つ一つに気魄がこもり、その懸命な競技と演技にはほれほれするものがあつた。保護者の方々の喝采が何よりの励みとなつた。与えられた場で全力を尽くす…そういう行動を素直に、自然に、爽やかにできる態度が川高生にしっかりと身に付いていることを、まずうれしく思つた。

代替大会等はあつたものの、高総体の中止でエネルギーの行き場を失つていた3年生が精魂を傾けた応援の演技は、それぞれ個性豊かであつた。赤ブロックの演技構成の巧みさ、青ブロックの切れのある動き、黄ブロックの見事な統一感、生徒の創造性とチームワークの結晶であり、実に見ごたえがあつた。また、豊かな色彩とデザインによるパネルも体育祭に花を添えた。

私がとりわけ目を見張つたのは、競技や演技に臨む生徒の生き生きとした表情であつた。この限られた時間の中で、精一杯「祭」として楽しみ、躍動する姿に、一瞬たりとも飽きさせるものはなかつた。苦難を乗り越えてきた3年生への饞の一つとして、生徒全員の手で心に残る体育祭をつくり上げてくれたことに対し、最大限の賛辞を贈りたい。

体育祭が終わる頃、雲が切れ晴間が広がつた。今年の体育祭のテーマである「完全燃焼～輝け勝利の華～」を実現した生徒の、胸がすくような心の内を象徴するかのような現象であつた。その晴れ渡つた青空をさらに突き抜けていくような、今後の川高生のますますの飛躍を期待したい。